

編集後記

来年にICD100周年記念をひかえ、宮崎会長より今年度の雑誌編集は、100周年前ぶれ号として、内容をいつにない重厚なものにしようのご発声があり、広報・編集員会一同一丸となって取り組みました。幸いにも今回の委員には大学の教授陣が多く就任され、それらの先生方の協力のお陰もあり、投稿原稿への査読の厳密化や写真掲載のカラー化（ホームページのみ）など、今まで以上に密度の濃いものとなりました。

特に100年を見据えた歯科医学の歴史の変遷を紐解いて頂こうと企画した特別企画には、歯科界のそれぞれの専門分野で活躍されてきた重鎮の三先生（齋藤毅先生、金子讓先生、神原正樹先生）に、寄稿頂くことができ大変幸運でした。次号は100周年記念号としてさらに内容を充実させるとともに、創設者の奥村鶴吉先生のICD設立当初の歴史を紐解いていきたいと考えております。（今村嘉宣）

ここ数年、夏になると気候変動に関する新聞記事を目にするようになっております。今年も九州、四国、中国地方を中心に大雨と大雨による二次災害の知らせを聞いております。災害に遭われた皆様と関係の皆様にお見舞いを申し上げます。さて先週末、福岡で日本歯科医学教育学会が開催されました。シンポジウムの1つに歯科医学の教育の国際化に向け、欧米で開催されたワークショップに参加された先生の報告を聞く機会がありました。日進月歩で変化する歯学教育とその中で巣立ってくる世界の若い歯科医師に取り残されることの無いよう日々研鑽しなければならぬと改めて考えさせられました。

（佐藤 聡）

はじめて編集させていただきました委員長の弘中です。ICDの100周年が近づいたいま、予算を計上頂き、多くの紙面作りを目指しております。長梅雨で、農作物の心配はありますが、ICD日本部会は実りの多い年となるよう記念しております。（弘中祥司）

委員会に入れていただき、丸2年がたちます。前号に引き続き、拙文を書かせていただきました。少しでもお役に立てればと思います。本誌は今号から、学会HPではカラーで読めるようになりました。費用の関係で雑誌では白黒でも、HPではカラーにできますので、臨床写真などはとてもわかりやすくなります。学会HPの担当として、そのほかに関しても少しでも充実したHPになるように努力しています。今後ともICDの一員として貢献したいと思います。（佐藤裕二）

平成が終わり、令和がスタートしました。歯科業界も厳しい状況ではありますが、だからこそ、ICDの存在意義があると思います。このICDメンバーの方々には本当に素晴らしい先生たちばかりです。新情報は勿論ですが、何よりもプラス思考の先生から直接プラスシャワーを浴びられる一つの組織だからです。私もそんな素晴らしい組織の一員として、これからも無理なく愉しみながら感謝の気持ちを忘れず、顔晴って行きます。（白壁浩之）

2019年 7 月 25 日 印刷
2019年 7 月 30 日 発行

国際歯科学士会日本部会雑誌第50巻第1号

発行 一般社団法人 国際歯科学士会日本部会
〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

一世出版(株)内

TEL : 03 (3952) 5155

FAX : 03 (5982) 7751

E-mail secretary@icd-japan.gr.jp

発行者 宮崎 隆

印刷所 一世印刷株式会社

東京都新宿区下落合2-6-22

TEL : 03 (3952) 5651

FAX : 03 (3953) 7751